

小千谷の特産品ずらり

[小千谷市農村都市交流協議会]

▶小千谷産コシヒカリを買い求める来場者



5月22日(日)、小千谷市農村都市交流協議会は、杉並区の小千谷学生寮協広場で、小千谷フェアを開催しました。

同フェアは、前年に引き続き毎月1回開催予定で、小千谷産の米や季節野菜・地酒などが並びました。

小千谷の名産品など、お目当ての品を買い求める多くの区民らで会場はにぎわいました。

品質向上に期待

▶導入された色彩選別機



4月下旬、JA片貝カントリーに色彩選別機を導入しました。

色彩選別機とは、白米や玄米の中から被害粒や着色粒を取り除く事の出来る機械で、大きさ・形状・比重による選別で除去できない変色したものなどを取り除くことができます。

小栗田の第一カントリーにも導入予定で、より一層の品質向上が期待できます。

補助教材小学校へ寄贈

▶補助教材を手渡す谷口組合長(左)と松井教育長(右)



当JAは、小学生に農業への理解を深めてもらう事を目的に、5月9日(月)、農業と食を基本テーマとした補助教材約380冊を小千谷市教育委員会を通じて市内小学校に寄贈しました。

同日に小千谷市役所で贈呈式が行われ、谷口熊一組合長が松井周之輔教育長に補助教材の目録と10万円分の図書カードを手渡ししました。

メロン苗定植開始

[小千谷園芸組合]

▶メロンの定植作業をする米山さん



小千谷園芸組合は、4月下旬から5月上旬まで、市内の圃場で、メロン苗の定植作業を行いました。

同組合の米山恵三さんは、圃場約16アにメロン苗を植え付けました。

同組合では「ユウカ」「タカミ」「マリアーシュ」「ボクノ夏」の4品種を栽培しています。28年度は各品種合計130トの出荷を目指しています。

新入職員農作業を体験



▲苗を運ぶ新入職員と生産者

JA越後おぢや管内の農事組合法人「うちがまき絆」と生産組合「アスカ冬井」の協力をいただき、4月に入組した新入職員6人が2班に分かれ、それぞれ5日間ずつ農作業を体験しました。

同研修は、農業経験のない新入職員が、実際に農業を体験することで、JA事業の基本である「農」を知り、農業の大変さ、難しさを実感し、今後の仕事に生かすことが狙いです。また、生産者とのふれあいを通じ、JAの役割やつながりを理解するように、平成26年から実施し、今回で3回目となります。

参加した金融共済部共済課の関香織は「思った以上に体力を使うので大変だった。そのおかげでいつも美味しいごはんを食べられていると実感できました」と話し、総務部企画管理課の諏訪弥生は「いままで体験するところの出来なかつた田植などを体験させていただき、農業の大変さを痛感すると共に楽しさも学ぶことが出来ました」と感想を述べました。

魚沼よりお知らせ

みなさん！ソーシャルワーカーという仕事を聞いたことがありますか？



JA新潟厚生連
魚沼病院
医療福祉相談室
医療ソーシャルワーカー
船越 愛

新潟県厚生連の病院・施設ではケースワーカーや相談員といったりすることがありますが、すべての病院・施設に相談援助職であるソーシャルワーカーが配置されています。

その中でも病院のソーシャルワーカー（医療ソーシャルワーカー）は、退院する時に自宅で療養をする場合どんな準備が必要なのか、利用できる介護のサービスはどんなものがあるのか、自宅での療養以外に転院や施設入所が必要な時には地域のリハビリ病院や療養病院、施設はどんなところがあるのか紹介し、その準備や利用のためのお手伝い

いをしていきます。また、医療費などの経済的な心配についても、負担軽減や経済的援助を受けることができる制度やサービスを紹介し、その利用のお手伝いをすることもあります。その他、障害者手帳や障害年金等の申請について、制度の仕組みや内容、申請方法、手続き等についての紹介やお手伝いもしています。

特に最近では、退院といわれたけれど介護が必要となりどうしたらよいのだろうかという相談をいただくことが多くあります。病状や介護の状況、家族の状況、経済的な状況、毎日の暮らしの考え方等によって生活はみなそれぞれです。退院後の療養生活がその本人・家族にとっての望むべき暮らしとなるよう一緒に考え、新たな生活を安心してスタートできるようにお手伝いをします。

もしお困りのことがありましたら、一人で悩まず一度私たちソーシャルワーカーにご相談ください。お手伝いできることがあるかもしれません。